

指宿市・山川・開聞建設業組合

新組合長に福永氏

立会
設総



福永 昭一 新組合長



新指宿市建設業組合発足総会

指宿市建設業組合(出口喜倉業組合長)、山川建設業組合(福ヶ迫昭善組合長)、開聞建設業組合(新吉一秀組合長)は4月28日、指宿市の指宿海上ホテルで旧組合の解散総会と、新指宿市発足に伴う新指宿市建設業組合の設立総会を行い、新組合長に福永昭一氏(株)福尚)が就任した。

会長の冒頭、旧組合を代表して福永氏から、新組合の発足に際しての挨拶が行われ、新組合の発展と、指宿市の発展に貢献していくことを誓った。

新執行部が決まった設立総会
指宿市の指宿海上ホテルで
表して出口組合
長が「新組織の
発足にあたって
の規約承認など
重要な議案が目
白押しです。円
滑な議事の進行
をお願いしたい
と挨拶。

日本ガス、標準船初入港式

安定した供給態勢に

日本ガス(株)(中間兼市社)が改築を進めていた鹿児島市谷山港3丁目の鹿児島工場バースがこのほど完成。4月30日、オーストラリアから標準LNG船(船名・エルエヌシー・ジャマル)の第一船が10日間の航海を経て入港。これに伴い同日、関係者約100人が出席し盛大に初入港を祝った。南九州では初の入港。同社はこれまで、インドネシアから2隻の小型LNG船(約2万立方メートル)を運搬していた。



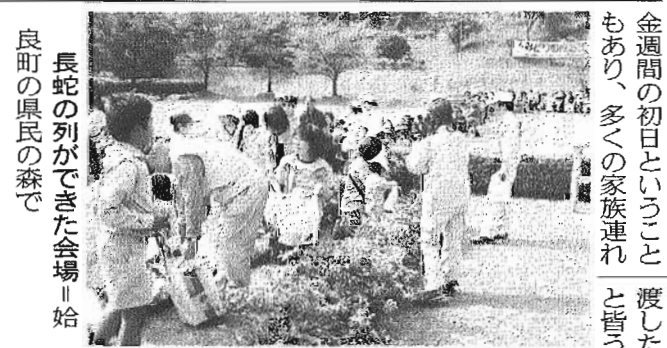
ジャマルをバックに記念写真(上)、入港を祝う関係者(下)の同社鹿児島工場

東贈呈後、中間社長が「本日、無事入港し、その堂々たる雄姿に感無量だ。調運先が増え、より安定した供給態勢を整えることができた。標準船の安定供給のための命綱である」と挨拶。最後に、中間社長をはじめ、関係者らがくす玉を割り、ジャマルをバックに記念撮影を行った。標準船入港を祝った。

安定した供給態勢を整えることができた。標準船の安定供給のための命綱である」と挨拶。最後に、中間社長をはじめ、関係者らがくす玉を割り、ジャマルをバックに記念撮影を行った。標準船入港を祝った。

緑の大切さを認識

県造園建設業協会 苗木配布



長蛇の列ができた会場。良町の県民の森で

金週間の初日ということもあり、多くの家族連れが訪れ、苗木を受け取るに持ち帰っていた。多数の家族連れが訪れたこともあり、あっという間に配布は終了。霧島市内から訪れた家族連れは、「緑の中で心地よい時間を過ごせた上に、苗木までもらえてありがたいですね。家族と一緒に植え、大切に育てたいです」と話した。

と抱負を語った。
18年度事業計画は、①協議③建設業労働災害防止及び交通安全事故防止
適正価格の確保②工事量

確保のための関係者との協議③建設業労働災害防止及び交通安全事故防止
適正価格の確保②工事量

④技術者講習会⑤ボランティア活動⑥災害個所調査外など。

県置工業組合が奉仕作業

偉業をしのび清掃

県置工業組合(増田勇理事長)は4月29日、鹿児島市城山町の薩摩義士碑周辺の清掃奉仕作業を実施。県内各地から組合員ら23人が参加し、石碑の清掃や階段の落ち葉拾いなどの清掃作業を行った。同日は早朝から、川薩日置支部など県内各地から組合員が駆けつけ、周辺道路の除草や落ち葉などをほろつきで清掃、石碑は高圧洗浄機で磨き上げた。4月29日の「みどりの日」は全日本建設業連合会が定めた「春の日の日」。今年で14回目となった毎年恒例の薩摩義士碑奉仕作業は、約250年前郷土の偉人が木曾川の治水事業を成し遂げた偉業を



作業終了後、記念写真に写る組合員。鹿児島市の薩摩義士碑で

花苗の配布に人気

県造園事業協組が奉仕活動



にぎわった花苗無料配布。鹿児島市の谷山緑地で

県造園事業協同組合(丸山重信理事長)は4月29日、鹿児島市の谷山緑地でみどりの日のイベントを開催。組合員ら約30人が参加して緑に関する相談や花苗の無料配布を行い、緑豊かで住みよい町づくりに貢献した。同イベントは、奉仕活動の一環として4月29日のみどりの日に、緑化への理解を目的に開催。庭づくりから庭木までの造園に関することや屋上緑化、ハーブ(薬草)などの無料相談や花苗無料配布を午前と午後の2回に分けて行った。花苗はガザニア、ペチニア、インパチェンス、マリゴールド、サルビアの合計320鉢を準備。その中で、花苗の無料配布では、配布前から家族連れであふれ、整列を促す組合員の声も聞かれない状況。整列後によろしく配布を始め、好みの花苗を受け取るというしそに家路に急いでいた。丸山理事長は、「安全



橋本重信氏が死去

あす、告別式

長年にわたり本県設計業界の発展に尽力してきた橋本重信氏(御橋木設計事務所代表取締役)が4月30日死去した。63歳。通夜は、きょう2日午後6時から。葬儀告別式は3日午前11時から、いづれも鹿児島市の吉田葬祭(099-247-1457)で執り行われる。喪主は妻・朋子さん。同氏は、全日空ビルや森ビルなど日本有数の建築物の設計を手掛けてきた。平成6年に帰郷後、県庁舎建設工事設計管理事業組合の一員として庁舎の設計を手掛けるなど本県を代表する設計者として知られている。また、広い見識と豊かな人間性から、建設や設計業界をはじめ各方面から高い評価を得てきた。

第一建設、ボランティアサポート

住民と清掃活動で汗



午前8時、現地集合した参加者約30人を前に、主催者を代表して新福愛子町議が「同地区の清掃は今年で2回目となり、お互いに協力しあって精進したい」と挨拶。作業手順等の説明の後、草刈り機やごみ袋等を手にした参加者は早速作業を開始した。作業は真夏を思わせる陽射しの下、路肩の雑草を刈ったり、空き缶やペットボトルなどを回収、瞬く間にトラックはごみ袋や雑草などが一杯になった。参加者は、見違えるようにきれいになった。